

## バイオブロック矯正

イギリスのJohn Mew先生が提唱された治療法で、5歳から10歳の子供を対象とした小児床矯正の1種で、基本、抜歯をしないで行う非抜歯矯正治療です。

側方拡大床装置をバイトアップを付与することで、バイオブロックと同じように、垂直的機能が発揮されると考えています。

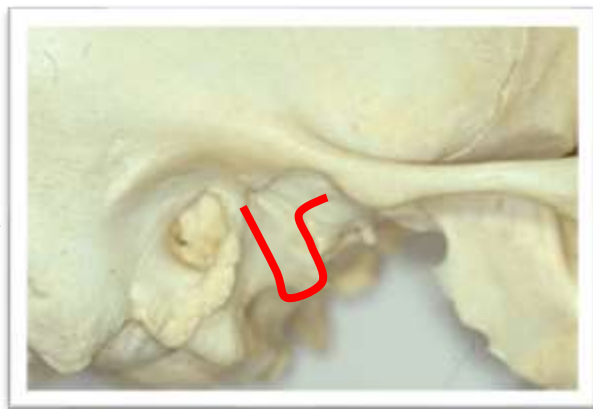


**バイオブロック**



**側方拡大床  
+ バイトアップ付き  
(+ 舌側弧線を付与)**

# なぜ、下顎は後退するのか？



## 4足歩行の頭蓋骨

4足歩行の時代は下顎頭の後方に突起があり下顎が後方に行くことはなかったが、その突起は2足歩行に移行する過程において退化がすすんできました。

咀嚼器官を使った「言葉」を豊富に駆使できたことで人と人とのつながりが増え、同時に脳が急速に5倍の容量に進化していったといわれています。人類は、咀嚼器官を使った豊富なコミュニケーションと脳が連携し急速に進化し誕生してきました。

その中で、言葉を豊富に得て豊かなコミュニケーションを獲得してきた代わりに、下顎が後退位を取ることで可能性が増えて行き、2級咬合が増える原因になったといわれています。

2級咬合が、下顎が後退位にあることは理解しやすいのですが、第一義に垂直的な高さ、下顎枝の長さが不足している症例が多くあります。

したがって、治療的には垂直的なアプローチが必須となってきます。

垂直的なアプローチがない、あるいはできない治療は、下顎の前方適応をさせることは困難を極めることになります。

## 2足歩行の頭蓋骨

## 弊社で使用しているセラミックス材料 ノリタケポーセレンCZR



- 優れた破壊靱性を持ち、口腔内装着後チッピングしにくい補綴物となります。
- 「ノリタケスーパーポーセレンAAA」と同じく耐クラック性に優れ、豊富な色調で自然感に溢れた表現が可能です。